

(様式 8)  
(Attached Form 8)論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	NGUYEN NHU NGOC
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Roles of Emotional Intelligence in the Workplace			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科准教授	高橋与志	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科教授	金子慎治	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科准教授	高橋新吾	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科准教授	後藤大策	
審査委員 Committee	広島大学大学院社会科学部研究科教授	築達延征	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文は、感情的知性 (emotional intelligence, EI) の職場における役割について研究したものである。ベトナムの社会人や学生を対象とした実験及びフィールド調査結果などにに基づき、実証分析を行っている。</p> <p>章別構成は以下の通りである。第1章で序論を述べた後、第2章では実験とフィールド調査から得られたデータを用い、EIの構成要素である感情の知覚から理解、制御、さらに職務業績に至る連鎖的関連について、認知的知性による負の調整効果を含めて明らかにした。第3章と第4章では、創造性とその先行要因の関連に係るEIの調整効果を分析した。このうち第3章では実験及びフィールド調査データに基づき、ストレス要因である作業要求や時間制約を先行要因とし、それぞれと創造性との逆U字型関係にEIが正の調整効果を持つという結果が得られた。他方、第4章では個人ではなくチームを分析単位とした2つの実験で得られたデータを用い、先行要因である価値多様性と創造性の関係にEIが正の調整効果を及ぼすことを示した。第5章では、EIとその負の帰結とされる他者の感情操作及び自己陶酔性の関連をメタ分析で明らかにした。第6章は結論である。</p> <p>当該分野における新たな貢献としては、既存の研究蓄積がある「連鎖的関連モデル (第2章)」、創造性ならびにその先行要因に係るモデル (第3章、第4章) を修正することで、これらのモデルにおけるEIの役割をより明確に示した点が評価できる。また第2章や第5章において、能力ベースと特性ベース、主観的測定と客観的測定といったEIの測定方法が異なる場合、分析結果にどのような違いが生じうるかについて体系的な議論を行った点も貢献として挙げられる。</p> <p>また本論文の主な内容の一部は、査読付き論文1篇として刊行済みである。他の主要な分析結果についても、査読付き論文として投稿済みまたは投稿準備を進めている。以上の審査の結果、本論文の著者は博士 (学術) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			